

# 株式会社テクノプロジェクト IoTを活用した高齢者栄養支援のモデル創出

提案者	島根県健康福祉部、公立大学法人島根県立大学、出雲在宅栄養サポートチーム(在宅NST)、株式会社テクノプロジェクト
対象分野	医療・福祉
実施地域	島根県松江市、島根県出雲市、島根県邑南町
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 高齢者の低栄養は合併症や入院期間長期化等の要因となるが、現状十分な対策が講じられていない。日本の高齢者の17.9%が低栄養傾向となっており、高齢化率全国3位の島根県では身近な課題である。また、島根県は国民健康保険被保険者1人当たりの年間医療費が全国1位であり、医療費適正化の観点からも低栄養対策は重要である。</li> <li>▶ 本事業では、咀嚼センサー、嚥下センサー、栄養摂取量計等で、咀嚼回数や嚥下力等の口腔機能を把握すると共に、炭水化物、たんぱく質、脂質等の摂取栄養量を測定することで、在宅における適正な低栄養対策を実現する。</li> </ul>

## 地域課題(問題点)

### 栄養支援対象者への医療

在宅療養者の栄養摂取量の算定には約40分必要であり、現状の人員では栄養ケアに十分な時間を割けない。

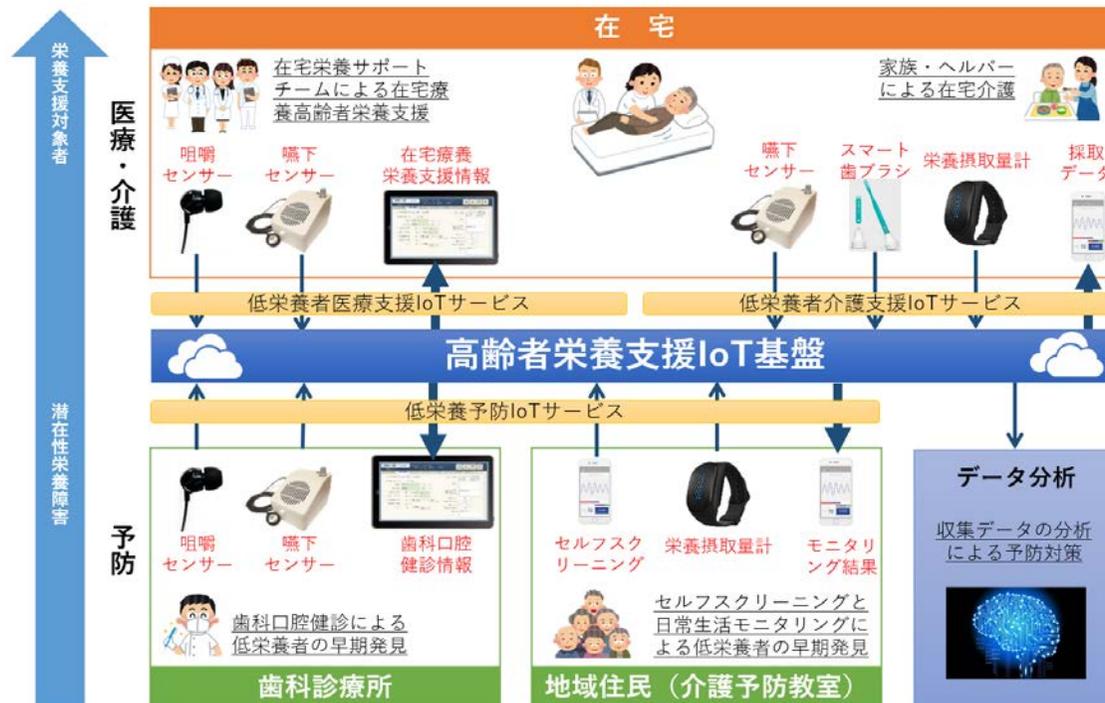
### 栄養支援対象者への介護

島根県は要介護認定率全国3位。介護において、栄養摂取に必要な食事介助には約40分を要している。

### 栄養障害の予防

過去の県内調査では高齢者の3割が低栄養または低栄養の疑いがあるが、現状低栄養の早期発見・介入が不十分。

## 地域課題解決に資するIoTサービス



## 実証成果(KPI)

### 栄養支援対象者への医療

在宅療養者の栄養摂取量の算定に要する時間を平均10分にすることを目標とする。

### 栄養支援対象者への介護

当該サービスを活用することで介護負担を軽減させる。食事介助時間の15%短縮を目標とする。

### 栄養障害の予防

予防段階のサービスで早期発見し、早期介入することでセルフスクリーニング(栄養に関する質問)結果を介入前に比べて10%改善させることを目標とする。

# 広島駅弁当株式会社 高齢者の栄養改善・虚弱予防支援モデル事業

提案者	広島駅弁当株式会社、広島市、広島大学病院、株式会社カナミックネットワーク
対象分野	医療・福祉
実施地域	広島県広島市
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 高齢者が健康かつ安心して生活するためには低栄養状態(栄養障害や口腔機能障害)の対策やフレイル状態(嚥下障害や加齢性筋肉減弱症)の予防対策が非常に重要である。</li> <li>➢ 本事業では、主に高齢者施設を利用している高齢者を対象に、<u>栄養状態やフレイル状態をIoT体組成センサーや摂取食事の記録システムで把握し、配食サービスにつなげる等、高齢者一人ひとりに最適な支援を実施する。</u></li> </ul>

## 地域課題(問題点)

### 高齢者における状態把握の欠如

健康寿命延伸の重要な要素である、高齢者の低栄養状態やフレイル状態の把握ができていない。

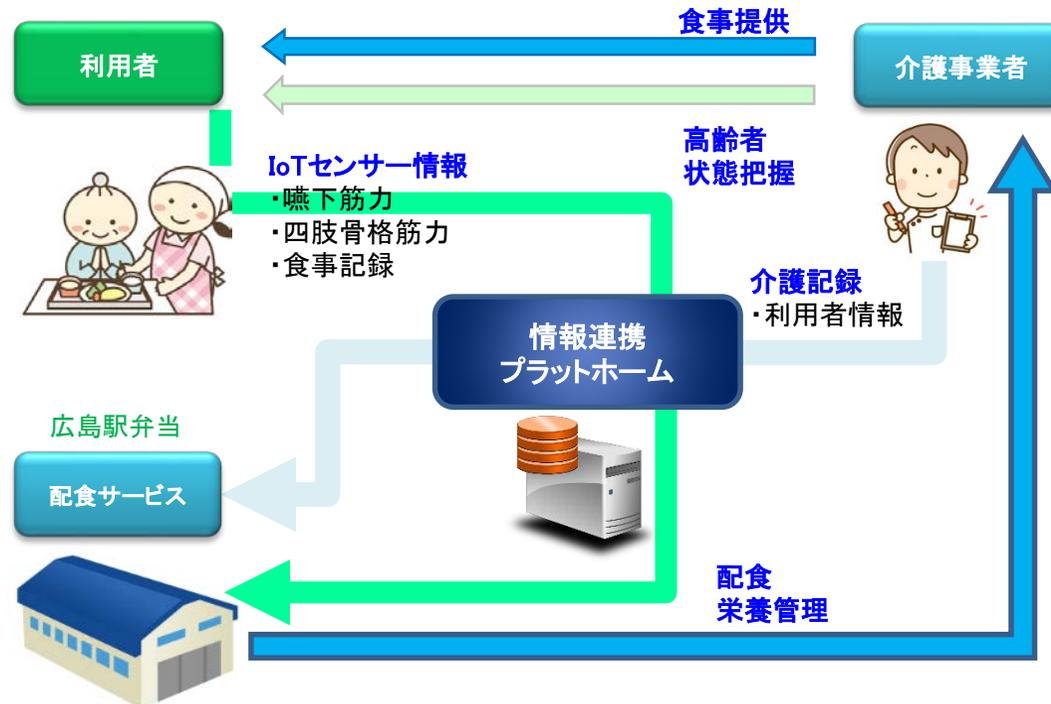
### 高齢者の低栄養状態

平成28年国民健康・栄養調査では、高齢者(65歳以上)の低栄養傾向の割合は17.8%。

### 高齢者のフレイル状態

フレイル状態の高齢者は約11.5%で、65~69歳の5.6%に対し、80歳以上では34.9%と加齢に伴い割合が高くなる。

## 地域課題解決に資するIoTサービス



## 実証成果(KPI)

### 高齢者における状態把握の実施

参加地域高齢者300名全員(100%)の低栄養状態やフレイル状態の把握を実施する。

### 低栄養状態への対策

高齢者が適切な食生活を行っているか摂取した食事を記録し、残した原因を特定することによる高齢者全員の低栄養状態の可視化を行い、適切な介入を実施し、低栄養状態の高齢者の割合を20%削減する。

### フレイル状態への対策

高齢者全員のフレイル進行に関係するたんぱく質の摂取状態を測定し、フレイル予防に効果的な介入を実施し、フレイル状態の高齢者の割合を15%削減する。